

当院検査部における HCV 感染者拾い上げの新たな取り組み

～HCV 抗体陽性者に対する HCV コア抗原追加測定～

◎藤永 亜季¹⁾

山口大学医学部附属病院 検査部 主任¹⁾

当院は山口県の肝疾患診療連携拠点病院に指定されており、2015 年から肝疾患センターが中心となって、肝炎ウイルス陽性者を把握し受診勧奨を行っている。受診勧奨への対応率向上のため、検査部では 2019 年 7 月より、毎週 HCV 抗体および HBs 抗原陽性者を抽出し、センターへの報告を開始した。報告を元にセンターの看護師が主治医に対し、結果説明と肝臓内科への紹介を促す個別通知をカルテ上で行うことで対応率が向上した。しかし HCV 治療の進歩に伴い、HCV 抗体陽性者の拾い上げでは既治療患者や偽陽性患者の割合が多くなり、不要な紹介・受診が生じやすくなっている。そこで、2026 年 6 月より、HCV 抗体陽性検体に対し HCV コア抗原を追加測定する取り組みを開始した。HCV コア抗原陽性者に限って個別通知を行うことで、治療を要する患者を効率的に拾い上げ、医師・看護師の業務および患者の不要な受診を軽減するとともに、対応率の向上が期待される。本セミナーでは開始から約 4 か月経った現状の報告を含め、本取り組みを紹介する。

C型肝炎の治療の現状と未治療患者の拾い上げ

～HCV コア抗原の可能性を含めて～

◎日高 勲¹⁾

山口県済生会山口総合病院 消化器内科 内科部長¹⁾

WHO は2030年までにウイルス型肝炎撲滅を目指しており、わが国でも様々な肝炎対策が実施されている。肝炎対策の一つに肝炎医療コーディネーターの育成がある。

C型肝炎に対する治療は進歩し、ほとんどすべての患者でウイルス排除が可能になった。一方で、適切な医療機関を受診していない未治療患者がいまだにいます。といった課題がある。

本セミナーでは、進歩したC型慢性肝炎・肝硬変の治療の現状について紹介するとともに、肝炎患者を適切に治療に結びつけるため「受検」・「受診」・「受療」を支援する肝炎医療コーディネーターの実際の活動事例について紹介する。特に、臨床検査技師の活動事例について多く紹介し、本セミナーを通じて、臨床検査技師が肝炎対策の中で、どのような活躍ができるか、考えていただける機会となることを期待する。

また、昨年保険適応となったHCV抗原検査についても、肝炎患者の受診勧奨における測定の意義について紹介する。